

第1学年1組 道徳科学習指導案

日 時 令和5年11月1日(水) 第5校時

場 所 1年1組教室

授業者 丹後 明史

1 主題名/内容項目 公平とは何か/C-(11) 公正、公平、社会正義

2 教材名 公平と不公平

3 主題設定の理由

(1) 主題について

公平に接するためには、偏ったものの見方や考え方を避けるよう努めることが大切である。好き嫌い
は感情であるため、制御することはできない。しかし、好き嫌いの感情にとらわれず、他者を好き嫌い
で判断したり偏見をもったりしないよう努めなければならない。自分自身が大切な存在であるように、
他者も同様に大切に尊重すべき存在であり、誰に対しても分け隔てなく公平に接し続けようとするこ
とが重要である。さらには、公平か不公平かを判断する際には、何が根拠となるのか考えさせることも大
切である。

人として社会の中で生きていくためには、他者との関わりが必要不可欠である。自分自身も含め、よ
りよく生きたいという願いは、差別や偏見のない社会にしたいという思いにつながることを気づかせ、
その判断力や実践意欲、態度を育てることが重要である。正義と公正さを重んじて、物事の是非を判断
し、誰に対しても公平に接することで、差別や偏見のない社会の実現に努めなければならない。

(2) 生徒について

男子20名、女子13名、計33名の学級である。明るく元気な生徒が多く、授業中の問いに対する
反応も良い、賑やかで明るい雰囲気のある学級である。男女で協力して活動することができ、最近では合唱
コンクールや学校祭の学級出し物など、一つの目標に向かって皆が協力して取り組むことができ、学級
としてのまとまりを感じることができる。また、積極的に自分の思いを伝えられる生徒もいるが、その
雰囲気や圧倒され、自分の思いを伝えることを躊躇したり苦手に感じたりしている生徒や、周りの生徒
の様子を見て自分の立ち位置を考えながら行動する生徒もいる。明るく活発な学級の中にも、それぞ
れの思いをもって仲間と生活している様子が見られる。

本学級には、3名の特別支援学級在籍生徒が交流学級として道徳をはじめ複数の教科を1組の生徒と
共に学習している。また、33名のうち、27名は同じ小学校出身であり、既存の人間関係の中で生活
している。そのため、互いの性格や特徴、得意不得意を理解しているためか、相手を攻撃するような場
面はあまり見られない。良い意味で互いの理解が進み、支え合うような考え方が広がっているように見
受けられる。

しかし、相手に対する言葉が少々きつかったり、相手の立場になって考えることが苦手だったりする
生徒もおり、まだまだ自己中心的な言動が残る幼い面もある。給食の配膳時には、ごはんや汁物が残っ
たため係が給食の増量を呼びかけるが、協力の呼びかけに応じない生徒もいる。席替えの際も、欠席者
がいたため実施延期の相談をしたところ、自分にとって得か損かで判断した発言も見受けられた。立場
を変えて考えることがまだまだ難しく、自分にとって得か損かの基準で判断し行動しているような生徒
も多い。よって、立場を変えることで見方も変わることを学び、「公平」について考えを深め、社会規範

等をもとに誰に対しても公平に判断して行動することの大切さを考えさせていくことが重要である。

また、道徳の学習の様子を見ると、わからないと考えることを放棄してしまったり、友だちの考えを聞いても自分の考えを見直さずに完結してしまったりと、考えを深めようとしないうちに見受けられる。友だちの話に耳を傾け、その考えから新たな発見や学びを得ることを通して、物事を多面的・多角的に考えることの価値についても理解することが大切である。

(3) 指導について

本教材は、3つの事例から構成されており、それぞれの事例について「公平」か「不公平」かを生徒に考えさせたい。事例A「年齢の違いでお年玉の金額が違うこと」、事例B「コンサートの会場に入場する際に、障害があることによって優先的に入場できること」、事例C「字が上手だという理由で、一人にまとめることをお願いすること」を通して、まずは「公平」かどうか、そして何を根拠にして判断すれば公平なのかを考えさせていきたい。また、立場が変われば見方も変わるため、相手の立場になって物事を考えることの大切さにも気づかせていきたい。そこで、本時では特に下記の2点について重きを置いて、指導を行っていく。

①主体的かつ多面的・多角的に考えさせるために

主体的に生徒に考えさせるために、「公平」「決められない」「不公平」を示しスケール化した【心の数直線】をワークシートに掲載したり、黒板に貼ってネームプレートを数直線上に貼らせたりすることで、事例に対する自分の考えを明確にさせたい。数直線上の微妙な位置を吟味したり、他者との考えの違いを知ってなぜそのように判断したのか疑問に思ったりと、主体的に自分の考えを深めるための一助としたい。

そして、自分の考えと友だちの考えとを比較し、多面的・多角的に考えさせたい。そのために、事例B・Cについて、生徒それぞれに「公平」か「不公平」かの判断とその理由を考えさせるとともに、事例Cでは、黒板上の【心の数直線】上に生徒自身の考えを明確にさせることで、同じ意見でも理由が異なることに気づかせたり、自分とは反対の考えを聞いたりさせることで、自分の判断について多面的・多角的により深く考えさせたい。さらに、考えることをやめてしまい、その時点で考えを完結してしまいがちの生徒にとっても、自分の考えと異なる考えや微妙なちがいに気づくことで、自分の考えとどのように違うのか興味をもたせ、考え直そうとするきっかけにしていきたい。議論する場を設け、考えを深めさせる場としていきたい。

また、立場を変えて考えることが苦手な生徒には、立場が変わることによって見方も変わることに気づかせ、どちらの立場にとっても公平であるためには、どのように判断し対応したらよいか考えさせたい。例えば【事例B】であれば、みんなが入場のために並んでいるのに、優先して入場できる車椅子の方に対しては「不公平」と判断されることが予想される。その際には、足の不自由な車椅子の方へと立場を変えて考えさせることで、「公平」か「不公平」かの判断に迷いを生じさせ、その後の「公平」かどうかの判断基準を考える際のヒントとしてつなげていきたい。

さらに、他者の考えを聞いた後に、考えが変わった生徒にはネームプレートを動かすように指示をし、考えが変わった生徒がいれば、その理由を全体で共有したい。

②個別最適な学びを保障するために

個別最適な学びを保障するために、本時の学習で考えたことや学んだことをもとに、生活の中の「ちがい」について考え直す時間を設けたい。道徳の学習における「一般化」を促すため、何気なく受け入れていた生活の中の「ちがい」も実は「公平」な判断によってなされていたことに気が

ついたり、また「不公平」だと思っていたことも本時の学習を経て「公平」だと考え直したりと、生活の中での「ちがいを「公平」と結びつけて考え直す機会にさせたい。

また、特別支援学級在籍の3名への生徒に対しては、普段から交流学級での学級活動の時間や総合的な学習の時間など、特別支援学級担任による学習支援や活動支援を行っている。そのため、本時の道徳の時間においても、同様に学習支援を行い、個別最適な学びを保障したい。

4 本時の学習

(1) 目 標 話し合いを通して「公平」とは何かを多面的・多角的に考え、その大切さを理解し、差別や偏見のない社会を築こうとする判断力を養う。

(2) 準 備 物 教科書、心の数直線、ネームプレート、ワークシート、挿絵、踏み台のイラスト

(3) 本時の学習過程

時間 (分)	○学習活動 (・予想される生徒の反応)	・支援と留意点 評価 (方法)
導入 0	○生活の中での「不公平」を考える。 ・徒歩通学と自転車通学のちがい ○【事例A】年齢の違いによってお年玉の金額が違ふことは公平かを考える。 ・姉の年になればもらえるため、公平である。 ・年齢によって使い途は異なるため、公平である。 ・年齢と金額の関係はなく、不公平である。	・道徳の時間のグランドルールを確認する。周りの生徒の考えから考え直すことも促す。 ・生徒自身の生活の中で不公平を感じる身近な【事例A】について考えさせ、関心をもたせる。 ・「妹」から「姉」に立場を変えて考えることも促す。
展開 8	○教師の範読を聞く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">事例B・Cについて、公平かどうか。その理由とあわせて考えよう。</div> ○事例B・Cについて、公平かどうか判断し、その理由を考える。事例Bについては、周りの生徒同士で話し合い、発表する。 【事例B】 ・安全上優先して入場した方が良いため、公平。 ・車椅子の方の席はあらかじめ決まっているため、優先して入場しても公平。 ・並んで入場を待っていた人も大勢いるので、先に入場することは不公平。 ・見たい気持ちは皆同じだから、不公平である。	
20	○事例Cについて、【心の数直線】上にネームプレートで自分の考えの位置に貼り、その理由を発表する。 【事例C】	・立場を変えて考えた場合(事例B:並んでいる人→車椅子の方、事例C:Cさん以外の生徒→Cさん)はどうなのかも含め、多面的・多角的に考えさせる。 ・近くの生徒と考えを話し合った後、生徒に話し合いで出た意見を発表させる。一つに考えをまとめる必要はなく、どのような意見が出たのかを発表させる。 ・「公平」と「平等」の違いにも気づかせる。「公平」と「平等」の違いについて、踏み台のイラストを見せ、その違いについて理解させる。 ・どの程度「公平」か「不公平」かを考えさせて、【心の数直線】上にネームプレートを貼らせる。 ・仲間の考えを聞いて、考えが変わった生徒には

30	<ul style="list-style-type: none"> ・Cさんの字がきれいという能力が評価されているため、公平。 ・Cさん以外にも役割が分担され、みんな仕事があるなら公平。 ・班で話し合われずにCさんに決まったため、不公平。Cさんだけに負担がかかっている。 	<p>ネームプレートを張り替えるよう指示をし、考えが変わった理由を発表させる。</p>
<p>公平・不公平と判断する時に大切にしなければならないことは何だろう。</p>		
	<p>○各自で考え、発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手の立場になったり、状況をよく理解したりして判断することが大切だ。 ・立場が弱い人のことを考えて判断する。 ・両方や相手の意見を聞いて、公平か判断する。 ・誰かが辛い思いをしないように配慮してあげることが大切。 ・差別や偏見ではないか。 ・みんなが同じように負担や我慢をしているかで、「公平」かどうかを判断する。 ・得か損かで判断してはいけない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・3つの事例を通して「公平」かどうかの判断基準を考えさせることで、公平についての理解を深めさせる。 ・得か損かで判断することではないことに気づかせる。 ・「相手の立場になって」の「相手」とはどのような人を指すのか考えさせる。 <p>話し合いを通して、「公平」とその判断基準について、主体的かつ多面的・多角的に考えを深めている。(発言、ワークシート)</p>
まとめ 40	<p>○本時の学びをもとに、生活の中にある「ちがい」の公平さを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・徒歩通学と自転車通学の生徒がいるのは不公平だと思ったが、遠距離通学の生徒の立場を考えると公平だと思う。みんな徒歩通学だと平等だけど、遠距離の生徒はかわいそう。 ・少ない量の給食の生徒がいるが、体調や食べることでできる量を考えると、やっぱり公平。平等に全員が同じ量だと辛い生徒もいる。 ・スーパーマーケットの入口付近にある体が不自由な方優先の駐車場は、やはり体が不自由な方のことを考えると公平である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活の中にある身近な「ちがい」を見つけさせ、そのちがいが「公平」である理由を考えさせる。 ・思いつかない生徒がいれば、周りの生徒の発表から気づいたり、今後の生活で見つけたりすることを促す。 ・振り返りを書き終わったら、隣同士(周りの生徒)で発表し合わせる。 ・時間があれば、何人か全体で発表させる。

(4) 授業の観点

- ・【心の数直線】をワークシートに掲載したり、黒板上の【心の数直線】上にネームプレートを貼らせたりして、考えを明確にしながら話し合いをさせたことは、生徒が主体的かつ多面的・多角的に考えるための支援として、また個別最適な学びを保障するための支援として適切であったか。

5 ご高評